出向く活動による認定農業者等との対話

―岩手県JAいわて花巻の取組み―

主事研究員　寺林暁良

JAいわて花巻は、自己改革の一環として、2016年に認定農業者や集落営農組織、農業法人などの担い手に出向く活動を強化した。JAはこれまでも担い手支援アドバイザーによる訪問活動を行ってきたが、訪問先をJAとの関係の深さに応じて整理し、より体系的に実施している点が従来の活動とは異なっている。JAの出向く活動について、PDCAサイクルに沿って紹介する。

1　計画

―管内担い手のリスト化―

JAは16年度に出向く活動を開始するにあたり、管内の担い手を改めてリストアップし、そのなかでもJAとの関係をさらに深めるべき789先を重点先として選定した。また、重点先それぞれについて、関係の深さに応じて目標訪問回数を設定した(第１図)。

同年度には、特に関係を強化すべき先を対象として、役員訪問も開始した。訪問する役員は常勤・非常勤を問わず、出身地区の理事である。

17年度には、出向く活動は同年度に始まったJA岩手県中央会の「声を聴く運動」と合流し、

①重点先への訪問回数
②そのなかでも重要な先への訪問回数
③役員訪問の戸数・回数
④将来ビジョン(夢)・課題等の収集戸数
⑤将来ビジョン(夢)・課題等の収集に対する回答・改善提案戸数

という５つの指標のもとで実施されることになった。これにより、単に担い手を訪問するだけではなく、担い手から将来の夢や課題を聴取し、それに対する回答・提案を示すことまでを目標にすることが明確化された。

第１図　出向く活動のPDCA

	出向く活動		役員訪問	
計画	担い手支援アドバイザー	・重点先の選定 ・訪問回数の設定	支店担当者	・訪問先の選定 ・役員日程調整 ・アポイントメント取得
実行	担い手支援アドバイザー	・営農相談 ・夢・課題の聴取・回答	役員(支店長等同行)	・営農相談 ・事業利用推進 ・JAへの要望聴取
評価	担い手支援アドバイザー	支店金融担当者	・TACシステムを活用した情報共有	
	役職員全体	・訪問記録一覧を組合長まで毎月回覧 ・担い手サポートセンターの進捗管理ミーティングなどにより岩手グループ全体で結果を共有		
改善	担い手支援アドバイザー	支店金融担当者	・TACシステムの操作講習会などによる訪問活動の改善	

資料　聞き取り調査により作成

2　実行

―職員訪問と役員訪問―

出向く活動の基本は、担い手支援アドバイザーによる訪問である。訪問のタイミングは平日の営業時間内で、アポイントメントは取らないことが多い。訪問の目的は営農に関する情報提供や営農支援事業の推進であるため、訪問時には、米穀・園芸・資材などに関

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/

する情報提供チラシや全農の『グリーンレポート』を持参する。これまでJAとの関係があまりなかった農業者や法人には、JA岩手県中央会の担い手サポートセンターの職員が同行することもある。

役員訪問では、支店から訪問先にアポイントメントを取り、支店長、支店の金融担当者、担い手支援アドバイザーのいずれかが同行する。訪問時には、営農に関する取組みの説明のほか、事業利用の推進、JAに対する要望の聴取などを行う。

出向く活動で得られた情報は、16年にJAいわてグループが統一的に導入したTACシステム「Dr. Sum」に登録する。同システムは、担い手支援アドバイザーと金融担当者が共同で利用しているため、両者の情報共有にも大きく役立っている。

3　評価

―訪問状況や夢・課題の共有―

出向く活動による訪問回数は、16年度は2,764回にのぼった。17年度は1,944回とおおむね目標(2,061回)に達したほか、役員訪問も182戸と目標の203戸に迫った。将来ビジョン(夢)・課題等の収集・提案戸数についてはJAが厳しく数えていることもあり、収集戸数が43戸、提案戸数が４戸となっているが、今後はこれらの数を増やすことで自己改革を着実に進めていきたいとしている。

出向く活動の記録は、組合長まで毎月回覧され、担い手の夢や課題の共有が行われている。また、活動の進捗状況は、担い手サポートセンターが各JAの担当者とともに毎月開催するミーティングでJAいわてグループ全体でも共有されている。

4　改善

―訪問内容の充実―

出向く活動の成果は着実に表れている。当初はあいさつ程度にとどまっていた訪問先も、複数回訪問することによって徐々に訪問時間が長くなり、経営内容に関する話までできるようになりつつある。

JAでは、TACシステムの操作研修会を実施したり、「担い手支援アドバイザー検討会」で訪問方法を振り返ったりすることにより、出向く活動の質の向上をさらに進めている。

5　出向く活動の特長

JAいわて花巻の出向く活動の特長は、次の３点である。

第１に、単に担い手を訪問するのではなく、解決策を提示するまでを目標にしていることである。重点先への訪問や役員訪問も、それ自体が目標なのではなく、担い手に夢や課題を語ってもらうためのプロセスとして重要だと位置づけられている。

第２に、訪問で得られた情報をTACシステムによって共有していることである。操作研修会の実施などにより、情報収集の質もさらに高められている。

第３に、JA岩手県中央会との連携も重要である。JAいわてグループ全体で体系的な進捗管理が行われることで、訪問活動が自己改革の具体的な成果として見えるようになっている。

（てらばやし　あきら）